

(5) 自然に関する部品

ㄣは右と左ではたいへんなちがい

ㄣは、右にあるのは「大ざと」左にあるのは「子ざとへん」と呼ばれています。しかし、そんな名で区別しているのでは、まにあわないくらい、この二つの間にはたいへんなちがいがあるのです。わたしは、右にあるのを「里づくり」、左にあるのを「崖へん」と呼んでいます。つまり、いまは同じ形でも、もとがちがうのです。𠂔、これは左にあるばあいの、古い形です。崖の象形です。

陸 四年 リク 壚は、土が重なっている形が示すとおり、「土の続く所」の意味の部首です。崖下は、海や川でも、崖の上は、土が続いて「りく」になっています。

防 五年 ボウ ふせぐ 方は四方です。ㄣは、この字では自然の崖ではなくて、人工の土手です。敵を「ふせぐ」ために四方に築いた土手、という意味の字です。防壁

院 四年 イン 完は完全です。完全な防壁をめぐらすという意味の字です。いまはそういう防壁のある「りっぱな建物」の意味に使います。

易は𠂔と丁でできています

陽 四年 ヨウ 易は𠂔で、𠂔と丁でできています。𠂔は「日光のそそぐ」こと。丁(トウ)は音を表わすでいるしです。陽は、「日当たりのよい南向きの崖」のことです。中国地方の南側を山陽地方というのはこの意味です。陽は、のちに「日なた」の意味に使われ、さらに、「日そのもの」をもいふようになりました。音は丁のなまりです。tyo→yo

湯 四年 トウ ヨウ 「日なた水」だっていうことが、すぐわかるでしょう。いまは、火でわかしたのもも湯といひます。音は丁です。to←tyo

場 三年 ジョウ ば 「日当たりのよい土地」という意味の字です。いまは、よい悪いに関係なく、「ところ」の意味に使います。音は丁が、にごってジョウになりました。

陞は土の階段です。

階 四年 カイ 𠂔は音を表わす。比は𠂔で、人のならば形なので、「同じものが続く」意味があります。

階は、「崖を登るために作った段々」のことです。

陞 六年 へイ 𠂔は、「同じ形にならんだ土の段々」です。天子は、郊外に祭壇をつくり、土の段々に登って、天をお祭りしたので、天子のことを陛下というのです。

**際** 五年 サイ 祭は、「人と神との交わる行事」です。際がけ がけは、「**𠄎**と**𠄎**と交わる場所」です。つまり、「山ぎわ」「崖のはし」です。また、「人と人との交わり」にも使います。

交際

**限** 五年 ゲン かぎる 良は𠄎で、「日しずが沈む」形。「一日のおわり」です。限は、「崖のおわり」ですが、いまは崖にかぎらず、「おわり」「はて」「かぎる」の意味に使います。

右の**𠄎**は邑の変形

**𠄎**さとづくりは、邑をかんたんにした形です。邑は、口(国)と巴(きまり)とできた字で、「統一ある国、または町村」という意味の字です。邦・ユウ 邑・郡は、国の大きさによる区別です。

**郡** 四年 ゲン 「君主(天子の命を受けた地方の国王)の治める**𠄎**」という意味の字です。いまでは、町村の上の単位に使っています。

**部** 四年 ブ **音**かいぼうは、解剖の剖で、「刀で切り分ける」ことです。**𠄎**つまり邑をいくつかに分けたものが、部(部落)というわけです。いまでは邑に関係なく、「野球部」「文学部」など、分けするばあいに使います。

**郊** コウ **𠄎**と**𠄎**と交わる場所が、郊です。「都市の

近郊」などと使います。

**郷** キョウ ゴウ **𠄎**は**𠄎**です。大きさが邑の二倍ほどある国。または町村が、郷です。良は、キョウという音を表わす部首です。

者はものがたくさんあること

**都** 三年 ト ツ みやこ 者(syo→tyo→to)は**𠄎**で、容器にあふれるほど、ものがたくさんある形です。いまは「もの」と「たくさん」と二つの使い方があります。部首としては「たくさん」の意味です。都は、「人の多い**𠄎**」という意味の字です。

**暑** 三年 ショ あつい 日がたくさん照りつけるので、「あつい」という意味になります。

**諸** 六年 ショ 「言(ことば)が多い」ということは、「人が多い」という意味です。諸君。いまでは、「諸国」「諸所」などとも使いま

**著** 六年 チョ あらわす いちじるしい す。「草がたくさんしげる」ことですが、いまでは、草に関係なく、「いちじるしい」「目だつ」「はっきり」「あらわす」などの意味に使います。

漢や油は川の名まえです

**漢** 五年 カン <sup>カン</sup> 漢という名の川です。この川のほとりに起こって、中国を統一した国が、漢という国です。漢字はこの漢という国の栄えた時代に、いまのような形になりました。

**油** 四年 ユ <sup>ユ</sup> 由という川です。この川は、とろりとしてゆうゆうと流れているので、とろりとしている「あぶら」を、油というようになりました。

**治** 四年 チ <sup>りょうがん</sup> 「川の水があふれないように、兩岸に高台を築く」ことが治です。いまでもむかしでも、この水を治めることが「政治」の第一であることは、変わりがないようです。台(tai)の音が<sup>タイ</sup>tiになり、<sup>チ</sup>にこればジになります。

**法** 四年 ホウ <sup>●</sup> 去は<sup>●</sup>去で、「ふたつきの容器」です。使うとき、ふたを取り去るので、「さる」意味に使います。水は、自然のままに流れ去り、じゃまがあればそれをよけて、むりをしないで海に流れていきます。水の流れのように、むりのない生活ができるように決めたのが法です。

也はいやなへびです

**池** 二年 チ <sup>池</sup> 池は、城のまわりをへびのようにとりまいている川のことです。

**地** 二年 チ <sup>地</sup> 土地には、山あり、谷あり、へびのようになっています。

**他** 四年 タ 「へびのようにはいやな人」という意味です。「あいつ」という意味に使います。いまは、「よそ」という意味。

演と延と遠

**演** 五年 エン <sup>エン</sup> 演は延の意味です。水がながながと流れるようすを演といいます。いまでは、講演、演説など、「ながながとおしゃべりする」ことに使います。

**延** 六年 エン <sup>えんによう</sup> <sup>●</sup> 延は、<sup>●</sup>延の変わった形です。ですから、<sup>●</sup>延と<sup>●</sup>延(延)と同じことになります。しかも、<sup>●</sup>延と<sup>●</sup>遠(遠)と同じ意味ですから、延と遠は、結局同じ意味になり、「とおざかる」ことです。

厂は崖の意味

原 三年 ゲン はら

厂と泉<sup>ゲン いずみ</sup>でできた字。「崖下から湧き出る泉」という意味ですが、いまでは、源<sup>みなもと 水のもと</sup>という

字ができ、原は、「崖下の平地」という意味に使われるようになりました。低くて平らなのが、平原<sup>へいげん</sup>で、高くて平らなのが高原<sup>こうげん</sup>というわけ

泉 三年 セン いずみ

白水とは、「きれいな水」の意味で、「湧き水」のことです。

厚 五年 コウ あつい

厚<sup>コウ</sup>(亨)は音を表わすし。がけの層の「あつい」ことを表わした字です。いまでは、

がけにかぎらず、物の「あつい」という意味に使います。

どちらがよくわかりますか

温 三年 オン

温<sup>しゅうじん</sup>は、もと盥です。囚人に食べ物を与える意味の字で、「心のあたたかい」ことを表

わした部首です。ですから温は、「水をあたためる」、または「あたたかい水」ということです。これに対して、「皿の<sup>さら みず</sup>が日に照らされて暖まる」という説明はどうですか。前の説明は正しい説明ですが、いまの字体から見ると、わかりにくいでしょう。あとの説明のほうがずっとわかりよいでしょう。こういう説明は、だれでも考えつくことができ、

しかも、子どもたちが漢字を覚えるのにはたいへん効果のあるものです。

活 三年 カツ

この字を考えてみてください。わたしはこんなふうに考えてみました。「かわいた舌を水でうるおして元気づく」こと。

折 五年 セツ おる

「手に斤(斧)を持って木をおる」ことです。でも、ほんとうは、この字の古い形は折<sup>おの</sup>ではなくて、木が二つに折れた形です。こういうことは、古い書物で調べなければわかりませんが、前のような説明なら、だれでもできるでしょう。子どもたちにはそれでよいのです。

姉 四年 シ あね

市は始だと考えるのです。女のきょうだいの始まりが姉だ、というわけです。妹の末は、未熟のくだものの象形ですから、「女のきょうだいの小さいの」ということになります。